

DX推進へ入門講座

市が初めてオンラインで

長野市は1月31日、計学やAI(人工知能)で分析して課題解決



カメラ越しに講義する柳澤社長

決に役立てる「データサイエンス(DS)」の入門講座を初めてオンラインで開いた。市内企業のDX(デジタル技術による変革)を推進する目的で、信州大学工学部の協力で全2回を企画。初回は市内企業の80人が受講して理解を深めた。

講師の井出昌浩・信大特任教授は、ビジネスのさまざまな場面でデータに基づいた判断が必要になると説明。入力装置・表示パネル製造販売などの長野テクノロンII本社・篠ノ井塩崎IIの柳澤由英社長は、会社のセキュリティ強化やDX化について社内周知から始めことや、県や市の支援で外部のITコーディネーターから伴走支援を受けたことを紹介。今後は導入した製品の検査装置から送られてくるデータを製造工程に反映させ、品質不良の減少や人材育成などを目指すと話した。

受講した不凍梓(ふとうし)の竹村製作所II本社の小島II(こしま)経営企画室の加藤俊(かとうしゅん)さんは「DX化したいが何から始めれば良いか悩んでいる。外部の支援で学び、自社の力にしていくことも大事だと感じた」と話していた。

次回は28日午後2時から、実務担当者向けにオンラインで開く。参加無料。◎市商工労働課(☎224・5041)。

講師の井出昌浩・信大特任教授は、ビジネスのさまざまな場面でデータに基づいた判断が必要になると説明。入力装置・表示パネル製造販売などの長野テクノロンII本社・篠ノ井塩崎IIの柳澤由英社長は、会社のセキュリティ強化やDX化について社内周知から始めことや、県や市の